



平成28年8月秋田地区

防災のススメ 大雨災害に備える



平成28年8月秋田地区を流れる訓子府川



平成29年7月境野地区

7月に発生した西日本豪雨災害は、大雨によって引き起こされた洪水と土砂崩れによって、多くの人々の命が犠牲となりました。

いざというとき、慌てずに対応できるように日頃から準備し、自らの命は、自らで守らなくてはなりません。今回は、もしもの大雨災害に日頃から備えておきたい大切なことを紹介します。

■置戸町で起きた最近の災害について

過去の被害状況を見てみると、台風による大雨が原因となったものが多く、過去には洪水により橋や家屋の流出も起きています。普段は、恵みを与えてくれる川の流れが、私たちの生活や命を脅かす恐ろしい存在となることがわかります。

○平成29年7月 境野地区で短時間に集中的な降雨となり、道道が冠水しました。

○平成28年8月 3つの台風が立て続けに襲来し、大雨被害が発生。常呂川氾濫のおそれから町は初めてとなる避難勧告を発令しました。
(避難者数153人)

○平成25年10月 降雪による倒木で町全域1,811戸が停電。気温が低下するなか、丸1日以上以上の停電となった地域もありました。

○昭和50年8月 台風による大雨被害が発生。1戸の家屋流出や44戸が床上浸水しました。

○昭和29年9月 台風による暴風被害が発生。年間の伐採量の10倍の風倒木被害がありました。